



精密部品の組み立て作業

松本市社会福祉協議会では、平成26年度から松本市の指定を受け「奈川社会就労センター」の管理運営を行なっています。同センターは、障がいなどの理由により、一般企業に勤めることが難しい人たちが、リハビリや職業訓練を兼ねて働き、社会参加を実現している社会福祉施設です。ここでは、一人ひとりの個性や能力に合わせて自立生活するための作業や訓練を実施し、障がい者と一般の健常者17名が施設を利用しています。

日頃は、精密関係部品のチェック、組み立てやドライフルーツなどの食品の異物混入の選別など繊細な作業を行なっています。今年度は、新たに地域に開かれた施設をめざし、遊休農地を利用して、奈川の特産であるそばやとうもろこしの栽培を行ない、観光客への販売も始めました。

## 平成26年10月1日号 No.204

- ・感動の松本市社会福祉大会 ..... 2 P
- ・町会ごとに「いきいきサロン」～寿台地区～ ..... 2 P
- ・児童館・児童センターで学習支援 ..... 3 P
- ・盛んな地区社協活動 ..... 3 P
- ・施設紹介〈松本市希望の家〉 ..... 3 P
- ・福祉まんが「あいちゃん」 ..... 3 P
- ・ボランティア活動紹介 ひまわりの会他 ..... 4 P
- ・ボランティア活動紹介 アナンドちゃんの支援が実る ..... 5 P
- ・シニアはつらつ！戸隠を満喫 ..... 5 P
- ・傾聴ボランティア《初級》養成講座のお知らせ ..... 5 P
- ・赤い羽根共同募金にご協力お願いいたします ..... 6 P
- ・地区で活動しています～日赤奉仕団の紹介～ ..... 6 P
- ・福祉自動車と車椅子の貸し出しをしています ..... 6 P



ゆずの皮の異物混入選別作業

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会  
 編集 社協まつもと編集委員会  
 電話 27-2000 FAX27-2239  
 E-mail : syakyoum@avis.ne.jp  
<http://www.syakyo-matsumoto.or.jp>

# 感動の松本市社会福祉大会

## ～障がいがあっても前向きに取り組む姿～

7月23日、約8百50名の参加者を得て、松本市社会福祉大会を松本市音楽文化ホールで開催しました。

地域の福祉向上に尽力いただいた48の個人・団体の方々の表彰式典の後、太鼓演奏と記念講演を行いました。

太鼓演奏では、松本養護学校の中学部・高等部・同窓生とその保護者で構成する「まつよう太鼓JOY」の皆さんが3曲を披露。

JOYは、子どもの可能性を見出し、将来の生活の充実を願って、PTA有志などの呼びかけで結成され、太鼓奏者の熱心な指導とサポーターの支援を得て、毎月2回練習を行なっています。



日頃の練習の成果を充分に発揮して、親子で生きたいと太鼓を叩く姿がとても印象的でした。

記念講演の講師は、3回のパラリンピックに出場したアルペンスキーヤーの三澤拓（ひろく）さん。「できるかできないかではなく、やるかやらないか」の演題で、6歳の時に交通事故で左足を失くして以降、持ち前の負けず嫌いと言えない精神で、水泳、野球、スキーなど様々なスポーツに挑戦してきた様子を熱く語りました。特に、1人では何もできないこと、両親や仲間、地域などの支えがあって、今の自分があること、周りへの感謝の気持ち忘れずに挑戦していくことの大切さを強調されました。

家族の絆や周囲の支え、また障がいのある人もない人も共に暮らせる地域づくりの重要性を実感した大会となりました。



【参加者の声】

障がいのある方が努力して太鼓を叩く姿は、何と素晴らしいことでしょう。涙が出るほど心を動かす力があり、希望と勇気をもらいました。感動をありがとうございます。

・できないことが恥ずかしくて、最初からやらない私ですが、絶対に諦めず前向きに取り組む三澤さんの姿に感動し、ファンになりました。心の金メダルをありがとうございます。

## 町会ごとに「いきいきサロン」～寿台地区～



高齢化が進み、特に独居の高齢者も多い寿台地区では、全町会での隣近所でのかわりを深めようと町会ごとのサロン活動を始めています。

3丁目町会では、エンディングノートの説明をして、来たるべきその日までみんなで生きいきと暮らしていきましょう、という話になりました。

9丁目町会では、今年からサロン活動に取り組むことになり、お手伝いしてくださるボランティアが集まる準備会を開催しました。気軽にお茶を飲んで近所と話しをするサロンの必要性について再確認をし、気持ちよく迎え入れるにはどんなふうにしたらいいか意見を出し合いました。「何かあったとき不安だよ」多くの方がそんなことをおっしゃっています。何かあった時に頼れるのは、やはりご近所の方々です。遠くの身内より近くの他人これからますます町会内のつながりが重要であり、サロン活動はその一翼を担っています。



3丁目町会  
エンディングノートについて話し合いをする参加者



9丁目町会  
サロンの必要性について話し合いをする参加者

# 子どもと学ぶ

— 児童館・児童センターで学習支援 —



島内児童センターにて

「ねえね、せんせい。あのね、ここがわからないんだよ」「それじゃあ、一緒に考えてみようか」次から次へと子どもたちから声がかかって大忙し。社協が運営する児童館・児童センターで、子どもに学習習慣を身につけてもらうおうと今年度から始めた学習支援の「コマです。教員OBの皆さんの協力を得て、夏休み中の涼しい時間帯に子どもと向き合いました。社協は今後も子どもの成長を支えてまいります。

## 盛んな地区社協活動



サマーナイトフェスタ(安原地区)



岡田夏まつり(岡田地区)



灯籠まつり(島内地区)



いづら祭(松原地区)

地区社協では様々な活動を行なっています。写真は4地区での夏まつりの風景です。各地区の皆さんが創意工夫して企画をし、子どもから高齢者に至るまで大勢の熱気で賑わいました。まつりを通してたくさんの笑顔やふれあいが生まれ、地域の絆がいつそう深まっています。

## 施設紹介 <松本市希望の家>



松本市希望の家は、平成11年に総合社会福祉センター隣りに新築移転して以来、今年で16年目になります。就労継続支援B型事業所として、通常の事業所に雇用されることが困難な障がいのある21人が、毎日元気に自転車や徒歩等で通所して働いています。「働く＝仕事」を基本にして、生産活動の知識や能力向上のために必要な訓練と、その他基本的な生活習慣の習得を図っています。

作業内容は、企業からの受託事業やリサイクル事業、外部就労及び喫茶事業です。喫茶「カフェポリジ」では、今まで以上においしいコーヒーを楽しんでいたこうと、新たにエスプレッソマシンを購入しました。利用者が心を込めて軽井沢の丸山コーヒーを提供いたしますので、ぜひお立ち寄りください。

# ボランティア情報 **こてまり**

●『こてまり』はこんな情報を発信しています！

ボランティア活動についての情報・活動者、団体の紹介・講習会や行事などの紹介

●問い合わせ／記事掲載の申し込み

松本市社会福祉協議会内ボランティアセンター 電話25-7311 FAX27-2239

ひまわりの会のみなさん



## ボランティア活動紹介 子育て支援にも活躍 ～ひまわりの会～



今年の社会福祉大会で表彰を受けた「ひまわりの会」は、芳川地区内でさまざまな活動をしているボランティアグループです。もともと、健康づくり推進員をしていた方々が、役を終えたあと集まったとのこと。

健康づくり推進員をしていた時にできた地域のみなさんとの関わりや、仲間との絆をこれからも継続していきたいという思いで、この会ができたそうです。その後も健康づくり推進員が終わるとひまわりの会に入り、地域を支える流れができてきました。地区の行事のお手伝い、福祉ひろばの運営など地区を知っている女性ならではのサポートで大活躍です。

特に子育て支援には力を入れていて、今日は多くの子どもたちを招いて世代間交流会での活動です。料理の得意なひまわりの会の皆さんは、カレー作りを受け持ちました。みなさん賑やかに活動されていて、「自分たちが楽しいんだよね」と活きいき笑顔でした。

代表の市川幸子さんによると、地域の福祉活動を支えつつ、自分たちの健康を保つため、今年から健康に関わる講座を会の事業に取り入れていくそうです。いつまでも、ひまわりのような笑顔でご活躍ください。

### 取材に伺います！

ボランティアに関する  
情報をお寄せください

## 魅惑の音色 スティールギターで 施設を訪問

40年ぶりに押入れからスティールギターをひっぱり出してきて、演奏ボランティアを始めた太田宏さん。

「ごうだこうぞう」(ごたっこぞうの意)の芸名で福祉施設を訪問しています。

スティールギターは、通常のものとは違いスライドバーという金属の棒で弦を押さえ、右手のピックで弾いて演奏します。日本では、ハワイアン音楽の分野で広く使われているものだそうです。通常のギターに比べて演奏が難しいとされていますが、腕前は趣味の域を超えプロ並み。

太田さんはアロハシャツと白いパンツの装いで登場し、潮風と波の音が聞こえるかのような居心地のいい空間を演出し、まるで南国にいるかのよう。ギターの音色に魅了された参加者は「腰が痛いのが治っちゃうね、踊りたくなっちゃう」と満面の笑みで話し、手を左右にゆらゆらと動かしてリズムをとり踊っていました。

ギター演奏の合間には、若き青春時代の歌を参加者とカラオケで大合唱です。「歌はその時代に戻れるので、みなさんの活きいきされる様子がうれしい」とおっしゃる太田さん。みなさんに楽しんでもらえるように心配りされ、温かな人柄が感じられるやさしい時間が流れていきます。



スティールギターを奏でる太田さん

# アナンドちゃんの支援が実る

重い心臓病の赤ちゃん(生後2カ月)アナンドちゃんが、遙かモンゴルからやってきました。手術を受けるためです。この手術にあたり、アナンドちゃんを支援する会代表の須澤博一さん(松本市医師会顧問)を中心に、多くのボランティアの輪が広がりました。治療費は200~300万円かかるとのことで、募金を呼びかけ多くの皆さんにご協力いただいたそうです。

費用のほかにも言葉のハードルがありました。日本語がまったくわからないご両親に、治療内容や手術前後の説明をしなくてはなりません。今回、通訳のボランティアで協力してくださったのはモンゴルから信州大学に留学している学生のみなさんでした。県立こども病院内での通訳だけでなく、滞在中の生活支援にも協力しました。ご両親も心強かったと思います。「自分たちができることは何でもやります」どの学生さんも笑顔でそう言っていました。また、上手な日本語で、私たちにモンゴルのことをいろいろ話してくださいました。

そして、この学生たちを何日も送迎してくださったのが松本市赤十字奉仕団(井垣陽子委員長)のみなさんです。「まさに赤十字の使命」と役員さんを中心に協力していただきました。アナンドちゃんの支援を通して、命の尊さとともに思いやりの心、人と人とのつながりと喜びを強く感じました。手術を終え無事帰国したアナンドちゃんが、これから元気に大きくなっていくことを祈っています。



手術を受けた  
アナンドちゃん



通訳の留学生と井垣陽子委員長

## シニアはつらつ! 戸隠を満喫



奥社に続く参道を歩く参加者

おもに、一人暮らしのシニアを対象に8月23日に初めて実施した戸隠トレッキング。心配していた天気にも恵まれて杉並木を進み、パワースポットといわれる奥社のご神殿は、まさに神が宿っているかのような厳かな空気でした。

地元のガイド吉井さんの案内で戸隠の歴史なども教えていただきながら、7キロの山道を3時間半歩き、疲れたけれど心地良い汗と達成感でいっぱいでした。

歩いた後は名物のそばをいただいたり、温泉で疲れを癒し、充実した一日を過ごしました。

参加者の仲間づくりが目的の事業でしたが、帰りのバスではすっかりと打ちとけ、疲れも見せずに会話の花が咲いていました。

## 傾聴ボランティア《初級》 養成講座のお知らせ

~参加者を募集します~

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 日 時  | 11月20日(木)、21日(金)<br>午前10時~               |
| 2 | 会 場  | なんなんひろば(南部公民館)<br>3階大会議室(松本市芳野4-1)       |
| 3 | 講 師  | NPO法人<br>ホールファミリーケア協会<br>事務局長 山田豊吉氏      |
| 4 | 募集人員 | 50名<br>(初めての方、関心のある方等)                   |
| 5 | 参加費  | 2日間で500円(1日のみでも)                         |
| 6 | 申し込み | ボランティアセンターへお電話で<br>お問合せ等どうぞ<br>電話25-7311 |

## 傾聴ボランティアとは



昨年の講座の様子

相手のお話を否定せずに、心から受け止めることで、相手を元気にしてさしあげるボランティアです。

講座では、聴き方のコツを学びます。

# 赤い羽根共同募金にご協力お願いいたします



赤い羽根共同募金に、昨年度は市民の皆さまの温かなご協力により39,275,914円が寄せられ、平成26年度の市内各地区の福祉事業や市全域、県の広域福祉事業に使わせていただいております。

本年度も、赤い羽根共同募金運動が10月1日から12月31日までの3ヵ月間全国一斉に行なわれます。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

今回紹介いたしました、いきいきサロン事業や各地区での夏祭り、敬老行事、ふれあい会食会など幅広く市内の福祉活動に活用させていただきます。

平成二十六年十月一日号 第二〇四号



健康づくりウォーキング（第2地区）



子育て支援講座（松南地区）



親子ひろば（入山辺地区）

## 地区で活動しています～日赤奉仕団の紹介～

松本市赤十字奉仕団は地区ごとに分団が組織され、現在は31分団、約1,300名の団員が災害時の炊出し等の訓練や地域のボランティア活動を行なっています。

6月には、各分団の役員を対象にポリ袋でお惣菜を作る炊出し訓練を実施しました。東日本大震災の被災地などで炊出しの支援活動を続けている「炊き出し機動部隊みらい」の浅田修吉さんを講師に、ポリ袋に具材や調味料を入れ、大釜で沸かしたお湯の中に入れて作るオムレツや麻婆豆腐、サバの味噌煮などの調理方法を学びました。松本市赤十字奉仕団の井垣委員長は、「様々なメニューを普通のポリ袋で簡単に調理できるこの炊出しを、各分団に広めていきたい」と話されていました。



ポリ袋を利用した炊き出し訓練



松本駅前 で奉仕団活動をPR

また、7月には赤十字奉仕団活動のPRを兼ねて、日赤社資の街頭募金を行ないました。松本駅前、イオン南松本店、カタクラモールで活動を紹介するパンフレットと花の種を配布し、3会場で合計51,173円の募金が集まりました。

皆さまからご協力いただいている日赤社資は、今回ご紹介した赤十字奉仕団の活動や、日本赤十字社が各地で実施している防災や救命のための講習会、災害備蓄等の大切な資金として役立てられています。

今後とも日本赤十字社並びに赤十字奉仕団の活動に対して、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 福祉自動車と車椅子の貸し出しをしています



松本市在住の方で介護を必要とする高齢者や身体障がい者（児）等で、車いすが必要な方やその家族に、福祉自動車（車いすに乗ったまま使用できる車）と、車いすの貸し出しを行なっておりますので、ご利用ください。

なお、貸し出しについては、予約状況や貸し出し条件がありますので、下記までお問い合わせください。

○問い合わせ 社協地域福祉課 電話25-7311

『社協まつもと』はみなさんからの共同募金の配分金で発行されています。

発行人 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 会長 渡辺 聰

松本市双葉四番十六号

印刷所 信州印刷株式会社